



98. キタムラサキウニ *Strongylocentrotus nudus*

(A. Agassiz) 図版41

英名 northern sea urchin

露名 чёрный ёж, морской ёж

地方名(北海道) ムラサキウニ、ノナ、シロ

漢字 北紫海胆

アイヌ語名 ニノー、アウシニノ、クンネニノ



棘を取り除いたキタムラサキウニ (左) と
エゾバフンウニ (右) の殻

【形態】 殻はエゾバフンウニよりも厚く強固である。エゾバフンウニと同様に長い棘*と短い棘があり、それぞれ主疣*と副疣*から出る。長い棘は1.6～3.0cmに達し、棘の表面には細かい縦線があり、先端はあまりとが

推移すると翌年の稚ウニの発生量が増えるが、これは自然死亡が起こりやすい浮遊期間が高水温によって短くなり、生残率が高くなるためと考えられている。

満1歳以上のキタムラサキウニは生殖巣の発達に向けて夏から秋にかけてコンブなどの海藻群落へ移動して活発に餌をとる。コンブ目褐藻^{かつそう}*類が優占する海域では、約2年で漁獲サイズの殻径^{かっけい}*50mmに達する。餌としてコンブを与えた場合には、6月に最も活発に摂餌^{せつじ}し、1日に体重の約5～10%のコンブを食べる。一方、水温が最も低くなる2月と最も高くなる9月には1日に体重の約1～4%程度しかコンブを食べなくなる。

外敵として、エゾバフンウニと同様に、ヒトデ類やカニ類などが知られている。また、クリイロヤドリニナという小型の巻き貝が寄生*すると、へい死することがある。